

1.調査目的等

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

国語：97 数学：95

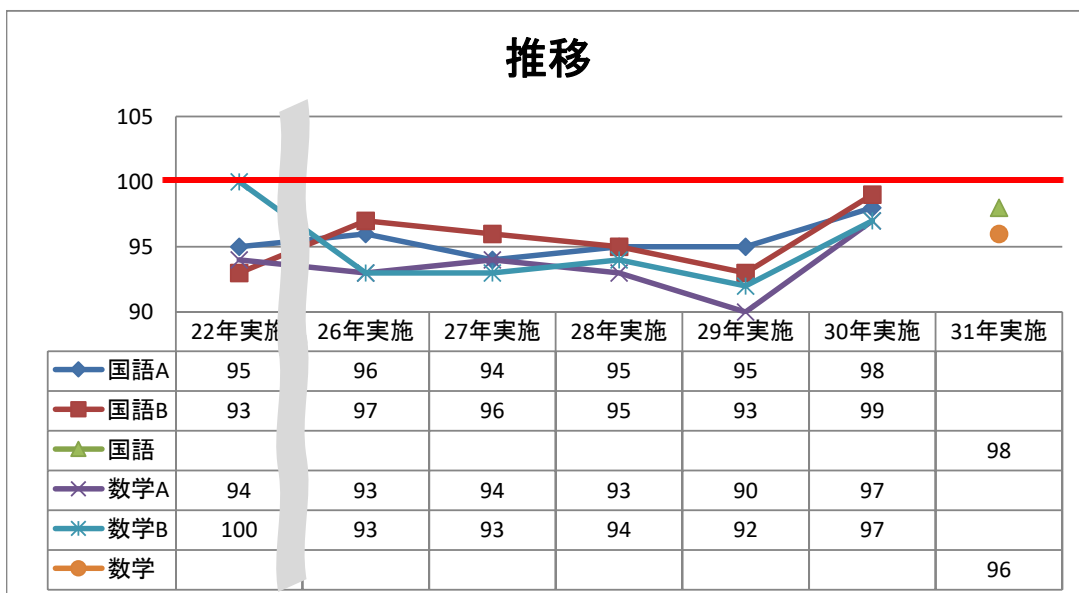
3.指標に向けての取組

- 基礎・基本の定着
 - ・一単位時間の中で、学習内容の定着を図るミニテストを実施する。
 - ・計画的な朝学習の実施(基礎・基本の定着を図る問題をスモールステップで実施)
- 授業づくりの改善
 - ・根拠を明らかにしたかく活動と交流活動の設定
- 家庭学習の質と量の向上
 - ・授業づくりと自学ノートの取組の連動と充実 ・週末課題における問題集の活用
 - ・個に応じた課題の提示
- 定期テストにB問題を取り入れるなどの見直しと、それに対応した授業づくりを協議する教科部会の実施
- 各教科における領域別の得点率などの細かなデータから、実態や課題を把握し、系統性のある改善策を立てる。
- 短期PDCAサイクルの実施
- 学力向上に向けた小中の連携(小中の学力向上コーディネーターの定期的な会議の設定)

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

| | 国語 | 数学 |
|-----|-----|-----|
| 本校 | 98 | 96 |
| 嘉麻市 | 97 | 95 |
| 全国 | 100 | 100 |

推移



※ 平成31年度実施から「知識に関する問題(A問題)」と「活用に関する問題(B問題)」を一体的に問う形式に変更

5.各学校における分析

【国語】

○「書く能力」については、伝えたい事柄について根拠を明確にして書く問題において県の平均正答率を上回り、全国の平均正答率に近い数値となった。根拠を明確にしながら自分の考えを書き、それをもとに交流する『表現させることを意識した言語活動』を授業づくりの視点の一つとして位置づけ、取り組んできた成果が表れてきていると考える。

●特に、「話す・聞く能力」と「読む能力」において、平均正答率が県や全国と比べて差がある。

⇒「話す・聞く能力」では、文章の展開に即して情報を整理し、内容をとらえる問題において、特に課題が見られた。

⇒「読む能力」においては、話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ問題において、特に課題が見られた。

【数学】

○「数と式」の領域では、事柄が成り立つ理由を説明することが求められる問題において、全国の平均正答率をわずかに上回り、県の平均正答率とも僅差となった。上記の国語と同様、根拠を明確にしながら自分の考えを表現させる活動を授業に位置付けてきたことが要因の一つと考える。

●「図形」、「関数」、「資料の活用」の領域において平均正答率の数値が低く、数学的な言葉の意味など基本的な知識・理解の定着が課題である。

6.各学校における今後の取組

○ 基礎・基本の定着

- ・一単位時間の中で、学習内容の定着と評価を図るミニテストを実施する。
- ・計画的な朝学習の実施(基礎・基本の定着を図る問題をスモールステップで実施)

○ 授業づくりの改善と家庭学習の質と量の向上

- ・授業づくりと自学ノートの取組の連動と充実
- ・週末課題における問題集の活用
- ・個に応じた課題の提示

○ 定期テストに自分の考えを書くなど思考力を問う問題を出題するとともに、そのような問題に対応できる生徒の育成を目指した授業づくりの推進を、教科部会を中心に進める。

○ 5の分析における課題を把握し、系統性のある改善策を立てる。

○ 短期的なPDCAサイクルの実施

○ 授業規律の確立に向けた、稲築中学校区としての取組の推進(『授業の約束』の徹底)

○ 学力向上に向けた小中の連携(小中の学力向上コーディネーターの定期的な会議の設定)

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

各学校が自校の課題を明確にするとともに、嘉麻市アクションプラン、嘉麻市学力向上全体構想をもとにした学力向上策を浸透・徹底させていくために、次の7点を中心に取組を進める。

○ 学力向上プランを各教室に浸透・徹底させるためのPDCAサイクルについて指導助言を行う。

○ 学力向上を図る上で効果のあった取組について共有化を図る研修を企画・運営する。

○ 「思考力・表現力等を問う」定期考査の実施や授業評価の取組に対する指導助言を行う。

○ 校内研修や学校訪問において、思考力を発揮させ最善解を導き出す「かく力」を育成するための指導助言を行う。

○ 学力向上に向けた取組が組織的・計画的に実施できるための指導助言を行う。

○ 家庭学習の習慣化、個別化に向けた取組についての指導助言や支援を行う。

○ 主幹教諭研修会において、それぞれの学校種の課題に即応する研修内容を工夫する。